



あなたと博物館

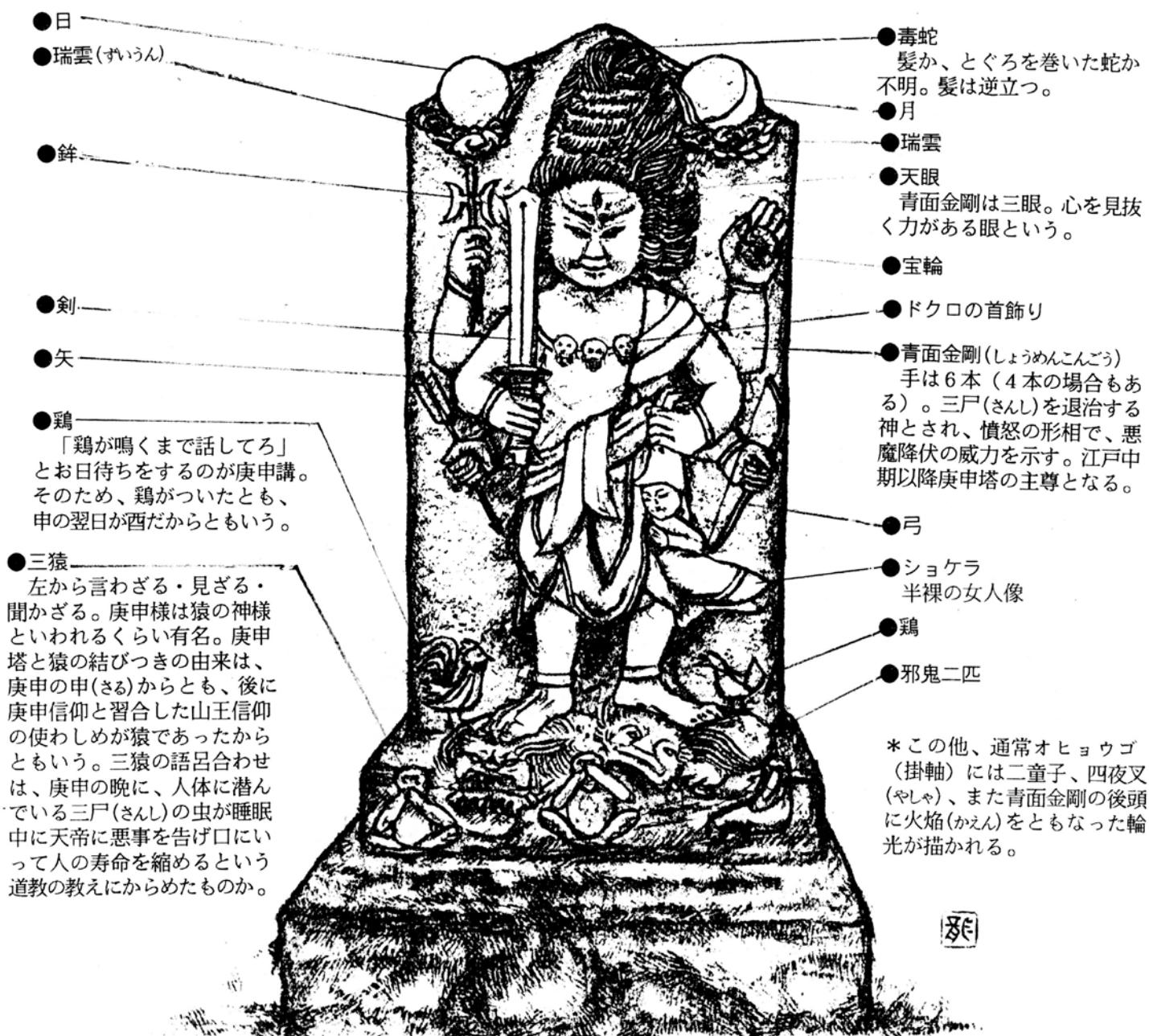
HIRATSUKA CITY MUSEUM

'95 12月号

今月の寄贈品コーナー

講のつどい

12月1日(金)~1月30日(火)



▲土屋人増自治会館 文久2年(1862)庚申塔 <イラスト:大澤龍二郎氏>

平塚の庚申講と地神講

★講の集い

市内には稻荷講・念佛講・大山講・庚申講(こうしんこう)・地神講(じじんこう)など講と呼ばれる信仰集団がいくつあります。このうち、平成6年12月をもって活動を終えた北金目中久保庚申講中と四之宮通り町庚申・地神講中より寄贈していただいた講のオヒヨウゴ(掛軸)、供物用の膳椀、帳簿類などを中心に、庚申講と地神講の関連資料を展示しました。

どちらの講も近所の10軒くらいで組み、庚申講は年6回、暦の庚申(かのえさる)の日に合わせ、地神講は年2回、これも暦の社日(しゃにち:春分・秋分に最も近い戌のこと)にそれぞれ回り番のヤドの家に戸主が集まって行います。オヒヨウゴを飾って灯明と線香、供物を捧げ、御馳走を食べ、夜更けまで四方山話をしてもすます。

庚申講を例にとると、市内には江戸時代前期から大正時代にかけて170基程の庚申塔が造立されており、そのほとんどが庚申講中によるものです。少なくとも市内の庚申講には300年の歴史があるといえます。ここでは、庚申・地神講が古くから地域社会に欠かせぬ集いであった理由を、娯楽・経済・信仰の3つの側面から考えてみたいと思います。それは、同時に、かつてはほぼ市内全域で行われていた庚申・地神講の失われていく原因を明らかにすることにもなりましょう。

★娯楽的側面

娯楽は<食><話><遊>の3つに大別できます。まず<食>からいえば、御馳走を食べられることが講の大きな魅力でした。戦前はバクメシといって白米と大麦(丸麦→ひきわり→押麦に変化)の混炊が常食でした。麦飯が白米に比べ味覚的に劣るかどうかは、白米が当たり前のわれわれには分かりませんが、少なくともかつての農家では、白米だけの飯は祭などハレの日にしか口に出来ぬありがたい食物でした。講の集いでは、各自白米5合なりを持ち寄り、菜代も納め、白い飯とヤドがこしらえたカワリモノと思う存分食べることができました。ところが、今は「お庚申行くより、うちの飯のほうがうまい」という御時勢です。

普段こむづかしい話や、逆に馬鹿話などしていると「<話>は庚申の晩」といわれ、庚申の晩にはそれこそ「鶏が鳴くまで」話しこんだものです。気の合った者同

士の私的な親睦の行事で、農作業などの情報交換を行う場がありました。

<遊>では、話しに飽きたと花札など博打に興じる講中もありました。

★経済的側面

庚申・地神講では頼母子(たのもし)や無尽(むじん)といって、掛金をなし、積み立てた講金を籤(くじ)で講員に平等に配当するシステムがとられていました。例えば、15軒程で構成していた四之宮通り町の地神講中では鍬無尽といつて、6月から8月にかけて各講員から何升かずつ集めた麦を換金し、年に2名分当たり籤を出し、当たった者に鍬を買う代金が配当されました。

庚申講は傘講といって、唐傘(からかさ)が出ました。このような無尽は経済成長とともに次第に行われなくなり、積立金で旅行したり、末期には1年間の積立金を人数で割って現金で戻すように変化するなど、無尽の意義も失われました。

★信仰的側面

地神さんは農業の神で、社日には鍬を扱ってはいけないといわれます。先に触れたように、四之宮の地神講中では、集めた麦を換金し、秋の社日に鍬代金の当たり籤を出します。折しも10月には麦の畠うないが行われ、地神講で買った鍬で耕作した麦で再び鍬を買うというよう地神を中心とした循環をみてとることができます。地神講で買った鍬を使うと良く当たる(豊作になる)といわれるよう、地神を経由することによって鍬に付加価値が生じるなど地神には作神の要素が濃厚に感じられます。

庚申と唐傘の関係は不明ですが、庚申様は手が6本あって働き者なので、信仰していると財をなすといわれます。

★消えゆく講

以上見てきたことをもとに消滅の原因を整理すると、①経済が豊かになった。②テレビに代表される娯楽の増加、多様化。③若い世代の理解が得られなくなった。④勤め人の増加による生活リズム、価値観の相違。⑤科学知識の普及による信仰心の低下などが挙げられます。勤め人にとっては、地域社会より職場やサークルなどの人間関係が重要になっており、生活圏の拡大とともに庚申・地神講の存在意義も失われていくようです。

体験学習

《紙すき》

■11月12日の日曜日に実施した体験学習「紙すき」には16名の方々が参加されました。

講師は埼玉県小川町在住で紙すきの伝統技術保持者の金子庫市氏にお願いしました。

(写真は、参加された方が講師の指導で紙をすいている様子です)



黒い太陽に翼を見た

1995年10月24日タイ日食

アジアで見られた皆既日食

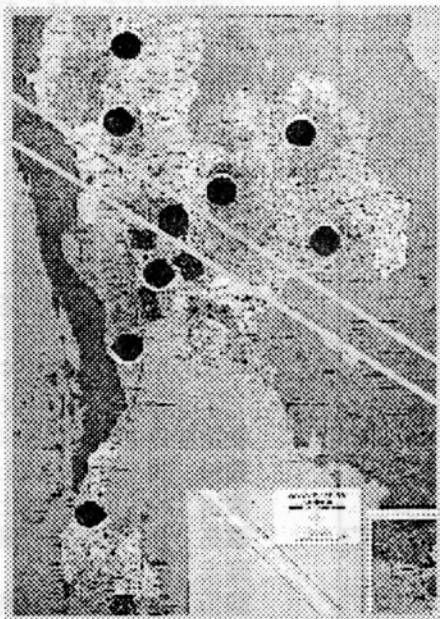
10月24日、インドから東南アジアにかけて皆既日食が見られました。

太陽はこの日、西アジアの、イランで日の出とともに月に隠されました。その後、皆既日食の帶は南東に延び、イランからアフガニスタン、パキスタンを経てインド北部を横断しました。その後いったんベンガル湾に出た後、再びミャンマーに上陸し、タイ、カンボジア、ベトナムと、東南アジアの各国を現

地時間の昼前に横切り、東シナ海

を経て、太平洋上で日没とともに終わりました。

皆既日食が見られる地域を地図上に描くと、細長い帯のようになることから皆既帶と呼ばれます。その長さは数千キロに及びますが、幅は最大でも90km程度と狭いものです。その中に入らなければ、皆既食とはならず、部分日食を見ることになってしまいます。そこで日食を観測する天文学者に限らず、世界中の日食ファンや旅行者がせまい皆既帶に押しよせることになります。日本からも数千人の人びとが皆既帶に入ったと思われます。交通の便、宿泊地の確保、観測地、天候などいくたの難関をかいくぐり、



タイの日食案内図

ダイヤモンドリングが見えはじめたときは、まるでお祭りのような騒ぎとなります。

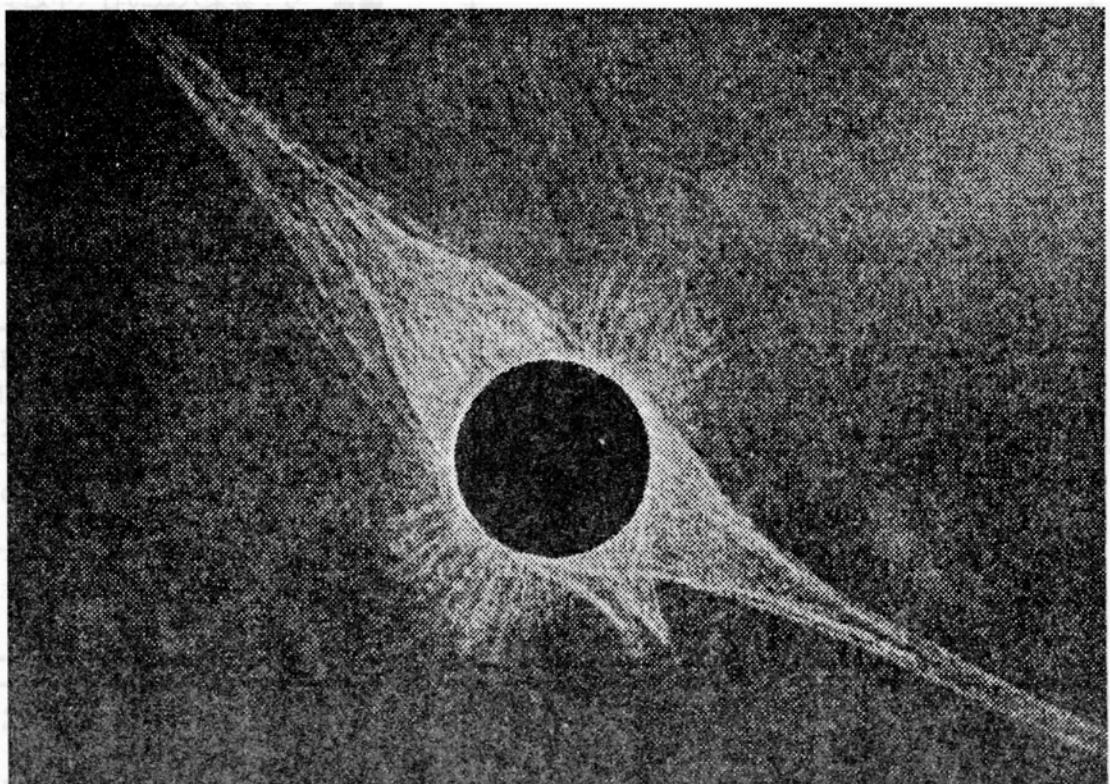
博物館の天体観察会のメンバーからもタイに3人、カンボジアに2人、遠征しました。カンボジアでは世界的に有名な仏教寺院のアンコールワットで皆既日食が見られました。

極小期型だったコロナ

下の絵は、タイの東北部、シッキウという場所で見られた皆既中のコロナを観察会員の川合慶一さんがスケッチしたものです。コロナは太陽から東西に長く伸びていました。その長さは太陽半径の6~7倍にも達しています。

コロナは太陽を取り巻く大気で、太陽の活動によってその形が変わって見えます。今回は太陽活動が穏やかな極小期にあたっており、典型的な極小型の姿でした。

コロナは左右に太陽の赤道方向に長く伸び、まるでつばさをひろげているかのようでした。



■博物館カレンダー■

12月の行事予定

2 土	地質調査会（館内）
9 土	◎漂着物を拾う会（平塚海岸） 古文書講読会
10 日	相模川の生い立ちを探る会 「煤ヶ谷石の産地・清川村谷太郎川」
13 水	地質調査会（館内）
16 土	平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会「星雲星団の観察」
17 日	古代遺跡を探す会 ○体験学習「お飾り作り」
22 金	◎星を見る会 「冬の星座」
24 日	○体験学習「家紋凧作り」 地質調査会（野外）
28 木	年末・年始休館 <至：1月4日>

1月の行事予定

6 土	地質調査会（館内）
10 水	地質調査会（館内）
13 土	◎漂着物を拾う会（平塚海岸） 古文書講読会 天体観察会「スター・ウォッチング調査」
14 日	天体観察会「スター・ウォッチング調査」 地質調査会（野外）
17 水	裏打ちの会
20 土	平塚の空襲と戦災を記録する会 天体観察会 <予備日> 「スター・ウォッチング調査」
21 日	古代遺跡を探す会
26 金	◎星を見る会 「月と金星を見よう」
27 土	古文書講読会
28 日	相模川の生い立ちを探る会 「峠の黄鉄鉱・秦野市峠」 冬の自然観察会
31 水	月末休館日

◎は参加自由 ○は申し込み制 他は会員制

プロジェクション一般投影：11/11～1/7

「明けの明星・宵の明星」

1/13～3/3

「赤外線の大目玉-すばる望遠鏡-」

寄贈品コーナー：12/1～1/30

「民俗部門：講のつどい」

■漂着物を拾う会 ■

◇海岸に打ち上げられた動物・植物・人工物を集めて調べます。

■開催日：12月9日（土）

1月13日（土）

■時間：9：30～15：00

■場所：平塚海岸・博物館科学教室

■集合：花水川河口平塚側たもと記念碑前

■参加：自由

■星を見る会：「冬の星座」 ■

◇冬の星座のきらびやかな星たちと、プレアデス星団（すばる）などを眺めます。

■開催日：12月22日（金）

■時間：19:00～20:00

■場所：博物館屋上

■集合：博物館<1階科学教室>

■参加：自由

■備考：曇・雨天時中止

体験学習参加者募集 ◆「家紋凧を作ろう」◆

◇家紋を入れた角凧作りを体験します。

■開催日：12月24日（日）

■時間：9:00～16:00

■場所：博物館科学教室

■材料費：400円

■申込：往復はがきで12月9日（土）まで。

■備考：募集人数20名（申込多数の場合は抽選）

訂正とおわび

11月号2ページの本文23行めに「太陽の東にいるときの金星は、夕方、太陽より早く沈みます」とあるのは、「太陽の西」の誤りでした。訂正しあわび申し上げます。

「あなたと博物館」

定期講読のお知らせ

平塚市博物館の情報紙「あなたと博物館」をご希望の方には直接郵送しています。お申し込みは、住所・氏名・電話番号・ご希望の号（〇年〇月号～〇年〇月号）をお書きの上、80円切手を必要枚数同封して博物館までお送り下さい。「あなたと博物館」は臨時増刊号を含め、年13回の発行を予定しています。

あなたと博物館 20巻9号 通巻226号 03000 発行 平塚市博物館
〒254 平塚市浅間町12-41 TEL: 0463(33)5111 FAX: 0463(31)3949 ※この用紙は再生紙を使用しています